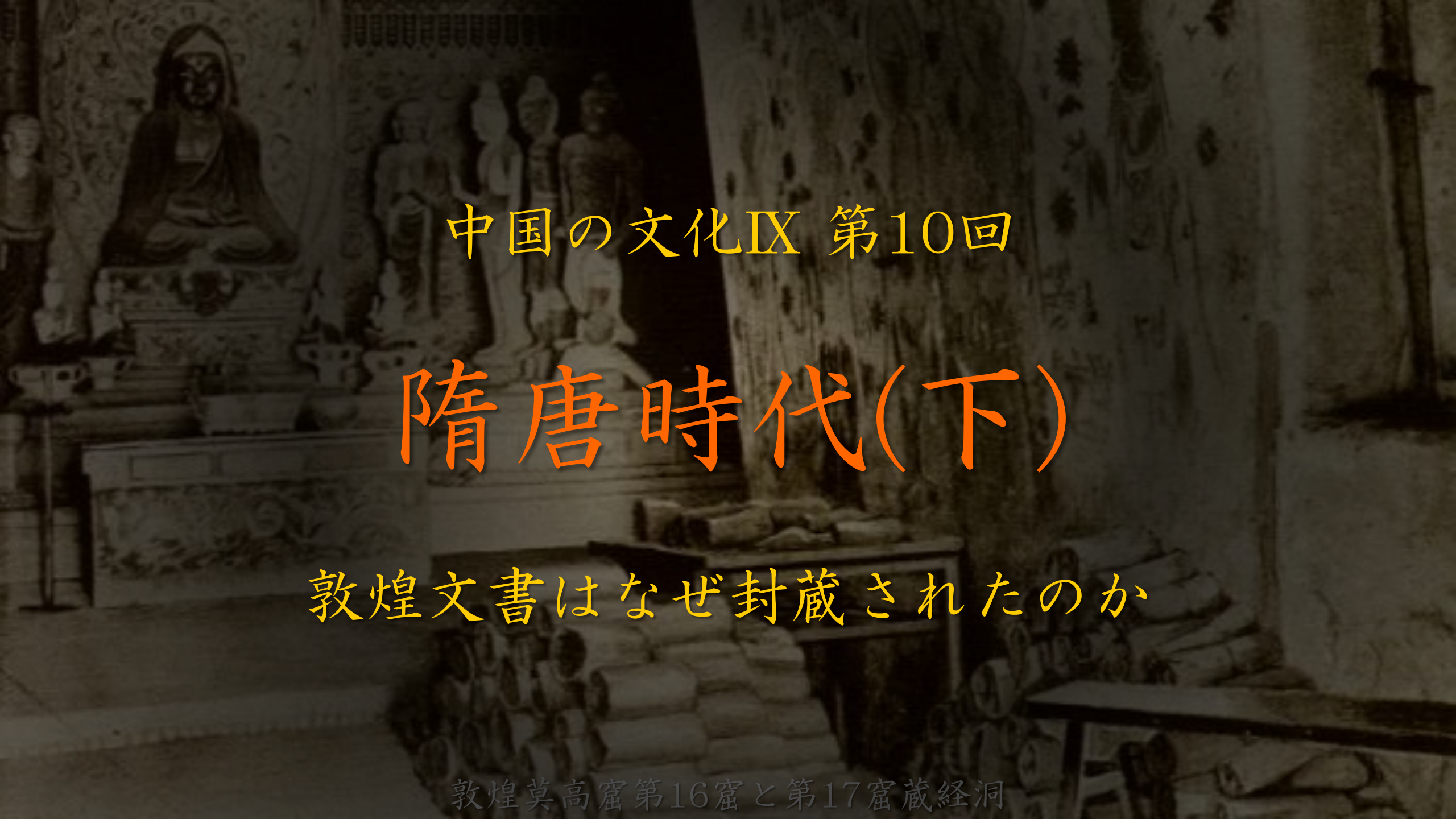


The background is a dark, sepia-toned photograph of a cave interior. On the left, a large seated Buddha figure is visible. In the center, several standing figures are depicted. The right side shows a rough, textured wall. The overall atmosphere is historical and archaeological.

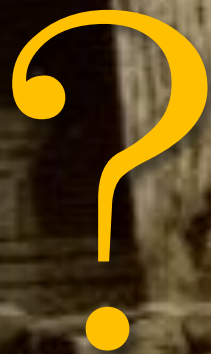
中国の文化IX 第10回

隋唐時代(下)

敦煌文書はなぜ封蔵されたのか

敦煌莫高窟第16窟と第17窟蔵経洞

「敦煌文書」は、なぜ敦煌莫高窟
第十七窟(蔵経洞)に封蔵されたのです
か？



敦煌莫高窟第16窟と第17窟蔵経洞

敦煌文書の発見

一九〇〇年、敦煌石窟（莫高窟）に暮らす王円籙という道士が、石窟（第十六窟）の甬道に、小さな石室（第十七窟）があるのを発見した。

十一世紀ごろ封印されたと考えられるこの石室には、四〇十一世紀までの文書数万点が封蔵されていた。

「敦煌文書」である。



王円籙(1850-1931)

バーミヤーン石窟

敦煌石窟の造営開始(366年頃)

雲崗石窟の造営開始(460年頃)

仏教石窟文化の東伝

北朝
(北魏)

南朝
(齊)

アジャンタ石窟

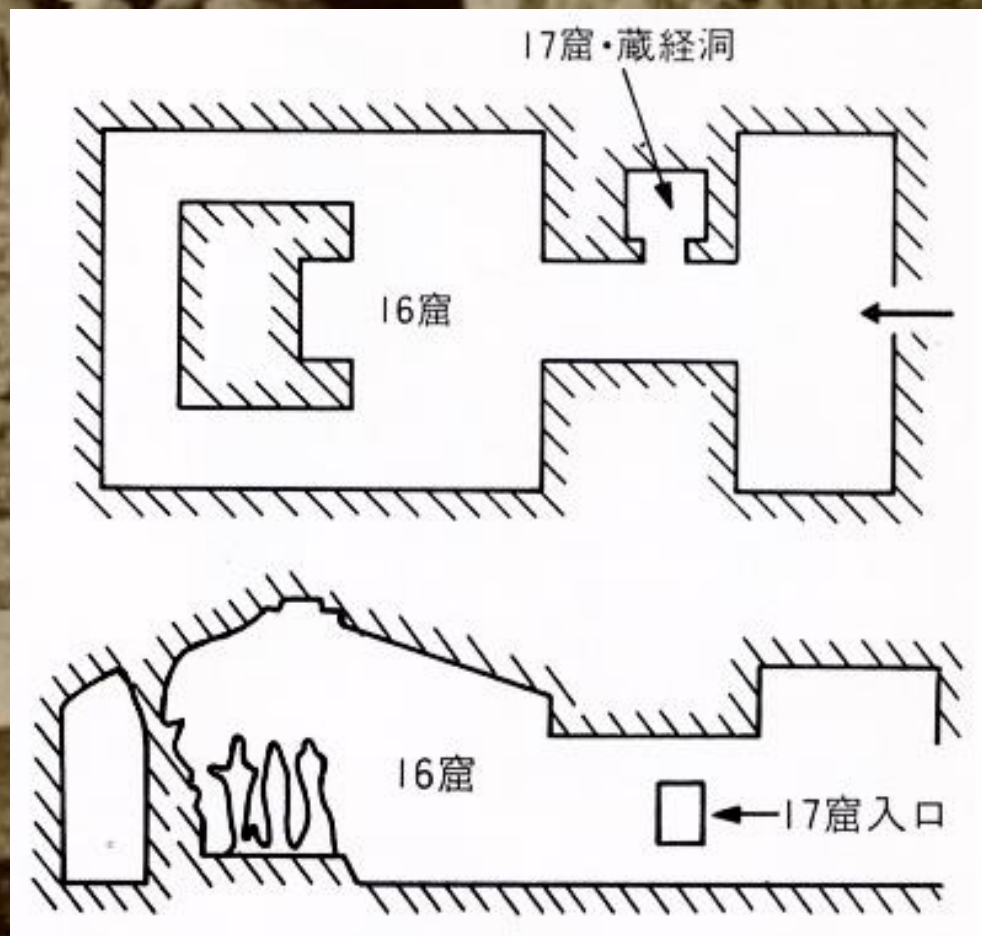
竜門石窟の造営開始(493年頃)



敦煌石窟で大量の古文書が発見される(1900年)

清朝





敦煌莫高窟第16窟と第17窟藏經洞



敦煌莫高窟第16窟と第17窟蔵経洞

御影堂から蔵経洞へ

一九〇〇年に第十七窟(蔵経洞)が発見された当時、石窟内は文書で満たされていた。

石窟内に残された碑文から、ここは元来、洪べんという高僧の像を祀る御影堂だったことがわかった。



蔵経洞内で調査するペリオ(1907年)



敦煌莫高窟第十七窟(藏経洞)から発見された「敦煌文書」は、なぜそこに封蔵されたのか？



藏経洞内で調査するペリオ(1907年)

ペリオの「西夏侵攻」説

一九〇八年に第十七窟(蔵経洞)を調査したフランスのペリオは、この石窟が封鎖された年代と理由について、次のように報告している。

①古文書に記された年号で最も新しいのは十世紀末である。

②古文書の中に西夏文字で書かれたものはない。

これらの理由から、この石窟は一〇三五年に西夏が侵攻する前に、貴重な文書を守るため封鎖されたと推定される。



Paul Pelliot (1878-1945)

井上靖の小説『敦煌』

ペリオが唱えた「西夏侵攻」説をヒントに、敦煌文書の謎を小説にした作家がいる。井上靖である。

井上靖の小説『敦煌』では、一〇三五年の西夏との戦いの中、第十七窟（藏経洞）に貴重な古文書が密封されるようすが描かれている。

同小説は、一九八八年に映画化され、翌年の日本アカデミー賞で最優秀作品賞と監督賞を受賞している。

井上靖 (1907～1991)

小説『敦煌』のあらすじ

ときは十一世紀初めの北宋時代。

科挙に失敗した趙行徳は、西夏の文字に興味を持ち、西域に向かう。途中、西夏の軍に捕えられるが、漢民族の部隊長・朱王礼に救われ、西夏の都で西夏文字を学ぶ。

趙行徳(佐藤浩市)

小説『敦煌』のあらすじ

数年後、漢民族の部隊長・朱王礼は、同じく漢民族の太守・曹延恵が治める敦煌で叛乱を企て、西夏の皇帝・李元昊を暗殺しようとする。



朱王礼(西田敏行)





?

朱王礼の西夏皇帝・李元昊暗殺計
画は成功したのか？

朱王礼(西田敏行)





第十七窟（蔵経洞）はどのように
作られたのか？





Paul Pelliot (1878-1945)

ペリオの「西夏侵攻」説の問題点

ペリオが唱えた「西夏侵攻」説にはいくつかの問題点があった。

- ① 仏教国である西夏から、なぜ仏教经典を守る必要があったのか
- ② 突然の侵攻であつたのに、なぜ壁一面に壁画を描く時間があったのか



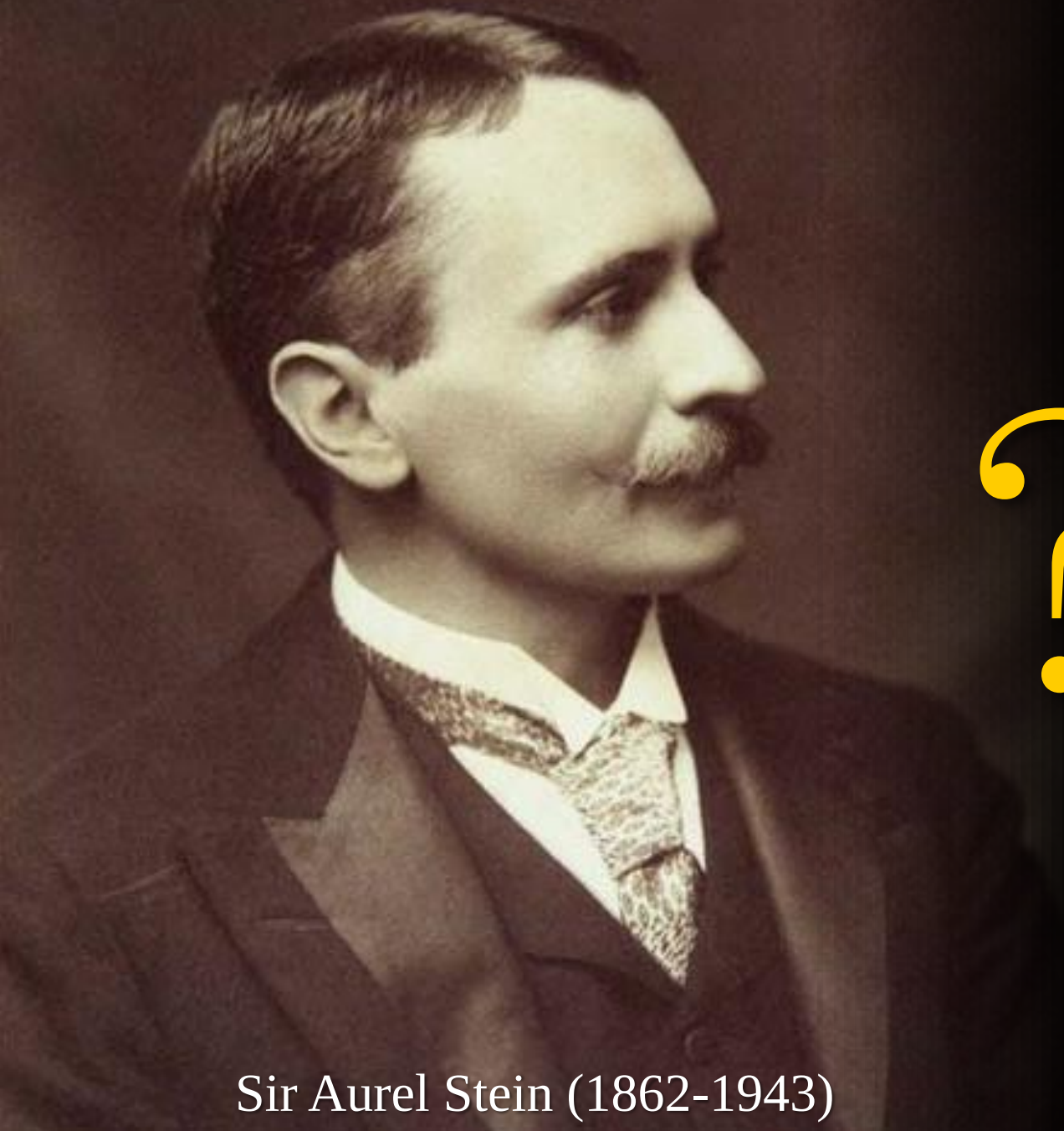
敦煌莫高窟第16窟と第17窟蔵経洞

一方、イギリスの探検家スタインは、一九二一年に出版した調査報告書 *Serindia* の中で、ペリオとは異なる説を唱えている。その説とは？

① イスラム王国カラハン朝脅威説

② 仏教末法説

③ 聖なるゴミ箱説



Sir Aurel Stein (1862-1943)

Serindia(セリンディア)

スタインは一九二一年、第二次中央アジア探検(一九〇六〜八年)に関する報告書 *Serindia* を出版している。本文三冊と写真集一冊、地図集一冊からなるこの報告書には、敦煌文書が発見された直後のようすが写真とともに詳細に紹介されている。

【参考】 国立情報学研究所

『東洋文庫所蔵』貴重書デジタルアーカイブ

SERINDIA

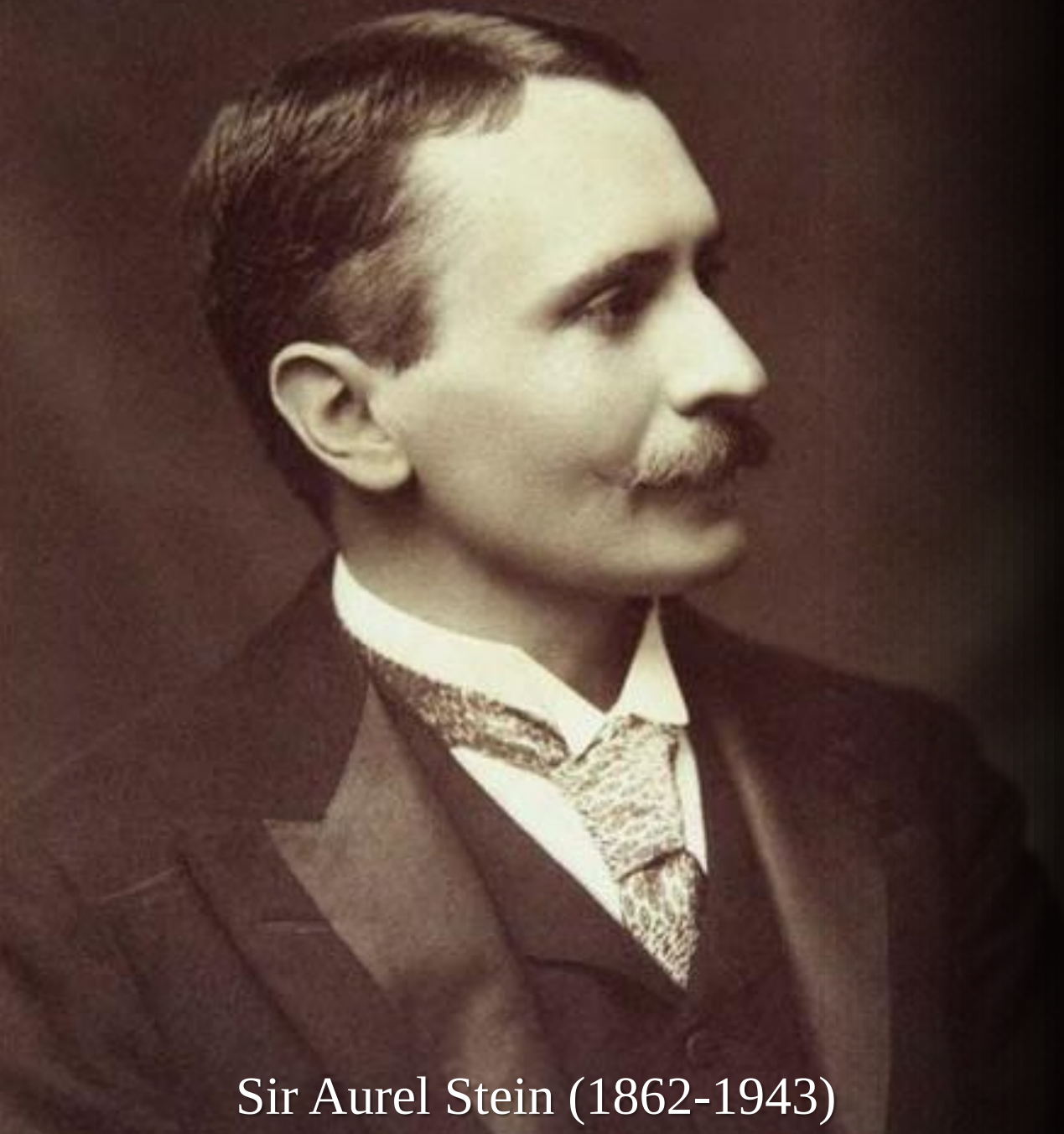
SIR AUREL STEIN



スタインの「聖なるゴミ箱」説

「……大量の文書の中からは、一〇三四年から三七年の間に敦煌を征服し、その後二百年近くこの地を支配した西夏（タングート）王朝の創始者が制定した、あの奇妙な文字（西夏文字——引用者）はまったく見つかっていない。」

Aurel Stein: Serindia vol.II, 八二〇頁、一九二二年



Sir Aurel Stein (1862-1943)

西夏文字

西夏王朝(一〇三二〜一二二七)を建国した、タングート族の首長・李元昊が、一〇三六年に制定した文字。約六千種の文字があり、学校教育や公文書の作成、仏教經典の翻訳などに使われた。

謎の文字とされていたが、京都大学の西田龍雄氏らが解読に成功した。



西夏文字で書かれた『法華經』25章(木版)

スタインの「聖なるゴミ箱」説

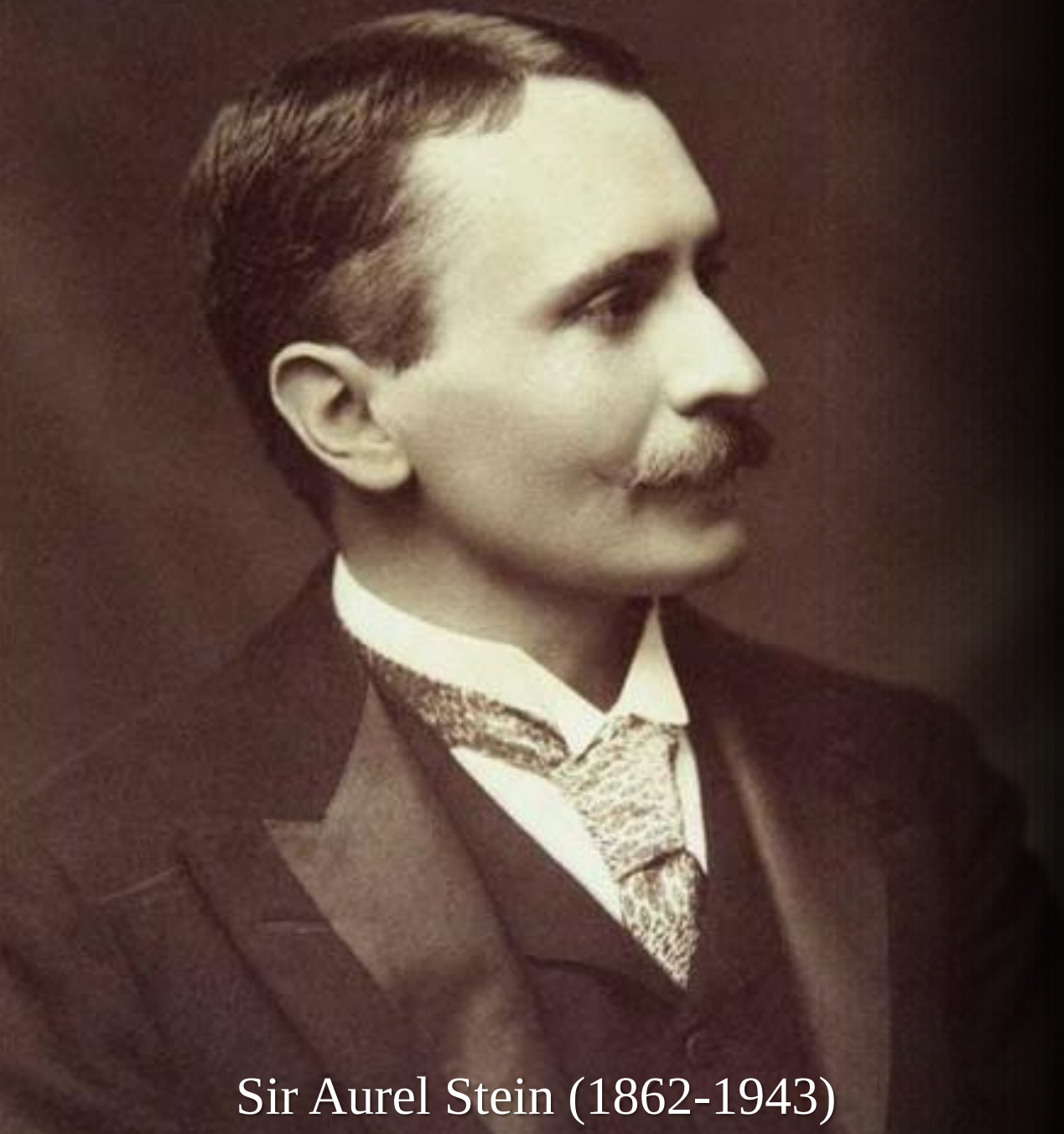
ところが、洞窟の壁画の上には、数百の漢字以外に、チベット文字やモンゴル文字、ウイグル文字のほか、西夏文字が漆喰の上に「ズグラッフィート」(二層に塗った塗料の上層を釘などで削り下層の色を出す技法—引用者)されているのが見えた。



スタインの「聖なるゴミ溜」説

となると、自然考えられることは、この部屋は、たとえばタングート族などの破壊的な侵攻が原因で封印され、その後、保存したこと自体がすっかり忘れ去られてしまったのではないかということである。

Aurel Stein: Serindia vol.II, 八二〇頁、一九二二年

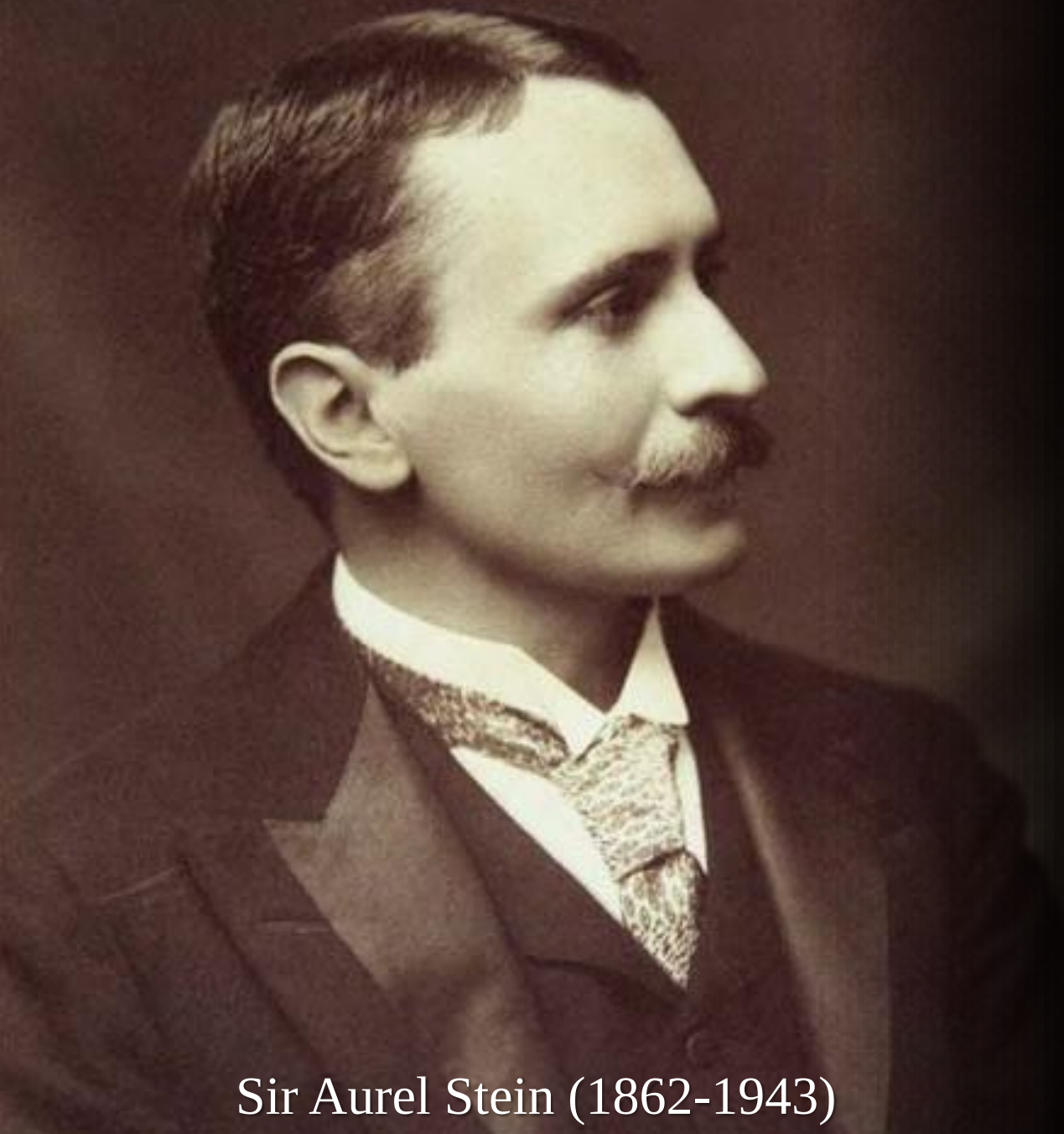


Sir Aurel Stein (1862-1943)

スタインの「聖なるゴミ溜」説

ところが、この小部屋ではまた、寺廟や僧院で使用され、不要となった聖なる不要品の貯蔵庫として使われていたのでは、ということを示す証拠も見つかっている。

Aurel Stein: Serindia vol.II, 八二〇頁、一九二二年



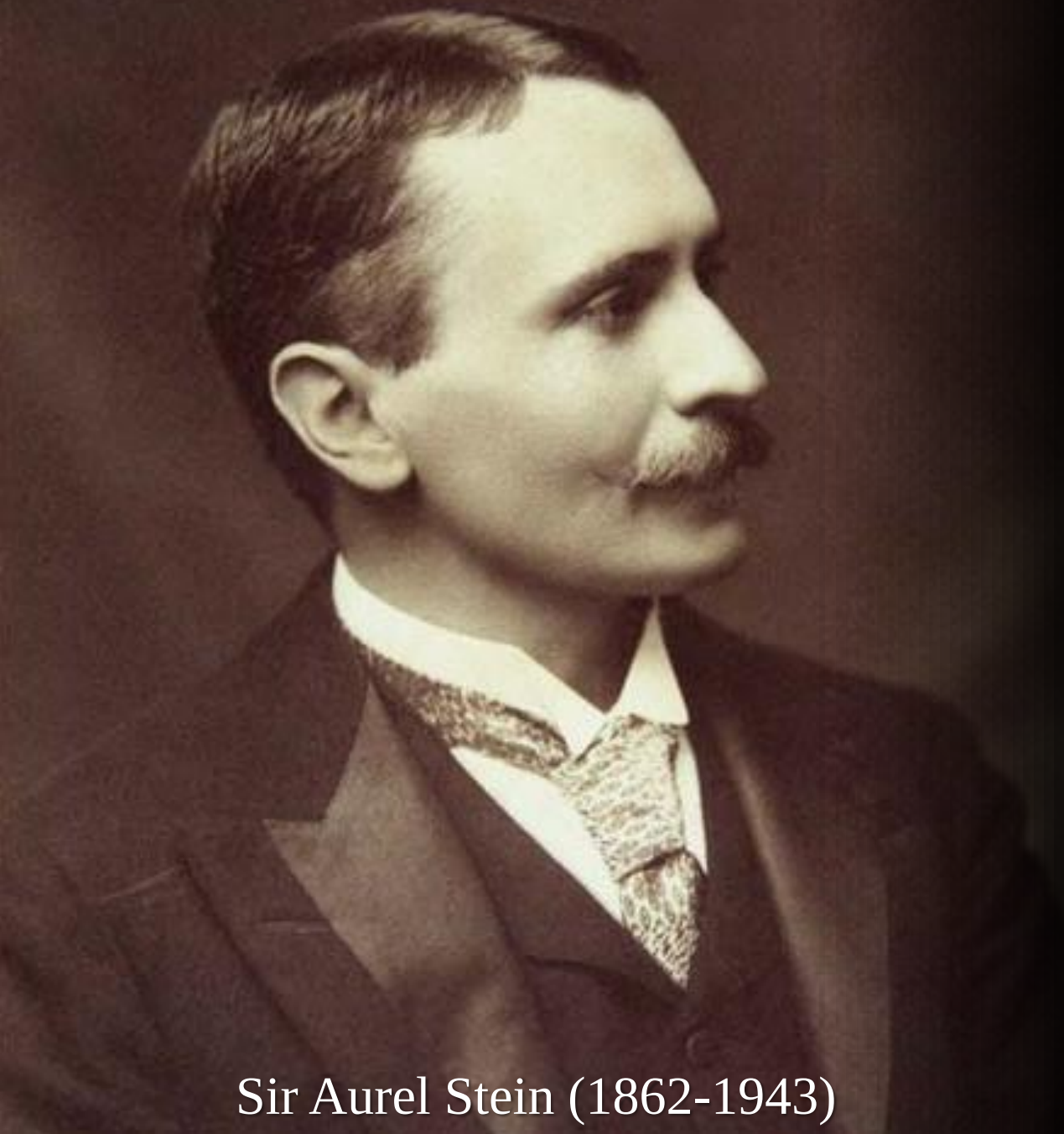
Sir Aurel Stein (1862-1943)

スタインの「聖なるゴミ溜」説

なかでも特筆すべきなのは、經典の端切れである漢字を記した紙切れを、丁寧に入れて縫い上げた小さな布袋である。

中国の人々は今でも文字の書かれた紙が床や道に落ちていると、拾って燃やす習慣があるが、これらは明らかにそれと同じ迷信から行われたものである。(完)

Aurel Stein: Serindia vol.II, 八二〇頁、一九二二年



Sir Aurel Stein (1862-1943)

「敬惜字紙」の習慣

經典を重んじ、因果応報を唱える
仏教思想の影響を受けた中国では、
文字が書かれた紙を他のごみと分別
収集し、惜字塔などと呼ばれる専用
の炉で焼く、「敬惜字紙」の習慣が
古くから行われていた。

写真は台湾に現存する清代の惜字
塔「龍潭聖蹟亭」。



台湾の龍潭聖蹟亭(清光緒元年(1875年))

仏教經典の祟り

〔解説〕

宋の洪邁は北宋末から南宋初の約百年間の民間雑事六千項目を集めた『夷堅志』を編纂した。同書の夷堅支甲巻第六には、仏教經典の祟りにまつわる「兜率寺經」という一篇が収められている。

之凡數日好事者竊述其所止乃入封崇寺之僧堂堂空無人獨三女者共處旁人夜夜聞搗藥聲旦則復出初未嘗見其寢食處也他日寺僧密窺之乃皆一足失聲歎咤婦人如已聞之

明日不復見嘉興叟說

夷堅甲志卷第二十

光緒五年歲在屠維單閼吳興陸氏十萬卷樓重雕

陸心源校

十萬卷樓叢書

兜率寺經

分寧縣兜率寺有張天覺所書圓覺經兵火後為近居民黃生所得寺僧求之不許黃愚人也不知為可貴視其紙堅淨遂毀以為卧榻單久之得癩疾痛苦穢腐數年乃死

（宋）洪邁『夷堅志』夷堅支甲卷第六

仏教經典の祟り

分寧県の兜率寺に張天覺が著した『円覺經』があった。兵火の後、近くに住む黄という人がそれを手に入れた。寺の僧がこれを返すよう頼んだが、同意しなかった。

(宋) 洪邁『夷堅志』夷堅支甲卷第六・兜率寺經

分寧県（現江西省修水県）

兜率寺經

分寧縣兜率寺有張天覺所書圓覺經兵火後為近居民黃生所得寺僧求之不許黃愚人也不知為可貴視其紙堅淨遂毀以為卧榻單久之得癩疾痛苦穢腐數年乃死

(宋) 洪邁『夷堅志』夷堅支甲卷第六

仏教經典の祟り

黄は愚かな人で、それが尊いものであるとも知らず、紙が丈夫なのを見ると、ばらばらにして寝台の敷物にした。しばらくすると、らい病にかかり、体を腐らせて苦しんだあげく、数年後に死んだ。

(宋) 洪邁『夷堅志』夷堅支甲卷第六・兜率寺經

分寧県 (現江西省修水県)

兜率寺經

分寧縣兜率寺有張天覺所書圓覺經兵火後為近居民黃生所得寺僧求之不許黃愚人也不知為可貴視其紙堅淨遂毀以為卧榻單久之得癩疾痛苦穢腐數年乃死

(宋) 洪邁『夷堅志』夷堅支甲卷第六

儒教經典の恩返し

〔解説〕

明の郎瑛（一四八七～？）の随筆集『七修類稿』巻四十九には、儒教經典の恩返しにまつわる「王沂公生」という一文が収められている。

仁和郎仁寶著

七修類稿

蘇州錦雲閣梓

七修類稿序

夫以觀於天文俯以察於地理是故通幽明之理而盡萬物之變不極乎天地之廣大則耳目益而聰明銅矣春秋記二百四十二年之事聖人代之而據事直書此後世紀國事者之典故也大之奇變熟乎朝廷之典故

王沂公主

文昌化書後載梓童坤降筆勸敬字紙文又曰宋王沂公之父見字紙遺墜必撿拾以香湯洗燒之一夕夢宣聖拍其背曰汝何以重吾字紙之勤也恨汝老矣無可成就他日當令曾參來汝家與生顯大門戶未幾果生一男遂命名曾後果狀元及第誠若是則吾夫子亦有輪迴果報之事乎老杜所謂孔子釋氏親抱送者非欺我也可發一笑

儒教經典の恩返し

宋の王沂公①の父は、文字が書かれた紙が落ちてゐるのを見ると、必ず拾って、香りをつけたお湯で洗い、燃やしていた。

(明) 郎瑛『七修類稿』卷四十九・王沂公生

【解説】

①王曾(九七八〜一〇三八)、北宋時代の官僚。貧困の中から身を起こし、咸平年間、解試、省試、殿試の三試験でいずれも首席で合格という、科挙史に残る快挙をなした。

七修類稿

蘇州錦雲閣梓

七修類稿序
文淵閣以觀於天文俯以察於地理是故通幽明之理而盡萬物之變不極乎天地之廣大則耳目益而聰明銅表春秋記二百四十二年之事聖人以此代而據事直書此後世紀國事者之典故也
大之奇變熟乎朝廷之典故

王沂公主

文昌化書後載梓童坤降筆勸敬字紙文又曰宋王沂公之父見字紙遺墜必撿拾以香湯洗燒之一夕夢宣聖拍其背曰汝何以重吾字紙之勤也恨汝老矣無可成就他日當令曾參來汝家與生顯大門戶未幾果生一男遂命名曾後果狀元及第誠若是則吾夫子亦有輪迴果報之事乎老杜所謂孔子釋氏親抱送者非欺我也可發一笑

儒教經典の恩返し

ある夜のこと、夢に孔子が現れ、彼の背を叩いてこう言った。

「お前は（儒教の）文字が書かれた紙をなぜそんなに大切にしてくるのか。お前は高齢で立身出世が望めぬのは残念だが、後日、（弟子の）曾参をお前に家に転生させ、一族を繁栄させてやろう。」

仁和郎 仁寶著

（明）郎瑛『七修類稿』卷四十九・王沂公生

七修類稿

蘇州錦雲閣梓

七修類稿序

予嘗以觀於天文俯以察於地理是故通幽明之理而盡萬物之變不極乎天地之廣大則耳目益而聰明銅矣春秋記二百四十二年之事聖人代之而據事直書此後世紀國事者之典故也大之奇變熟乎朝廷之典故

王沂公主

文昌化書後載梓童坤降筆勸敬字紙文又曰宋王沂公之父見字紙遺墜必撿拾以香湯洗燒之一夕夢宣聖拍其背曰汝何以重吾字紙之勤也恨汝老矣無可成就他日當令曾參來汝家受生顯大門戶未幾果生一男遂命名曾後果狀元及第誠若是則吾夫子亦有輪迴果報之事乎老杜所謂孔子釋氏親抱送者非欺我也可發一笑

（明）郎瑛『七修類稿』卷四十九

儒教經典の恩返し

しばらくすると、夢のお告げのとお
り男の子が生まれたので、(曾参に
ちなんで)曾と名づけた。すると、夢
のお告げのとおりに科挙に一番で合格
した。

(明) 郎瑛『七修類稿』卷四十九・王沂公生

仁和郎仁寶著

七修類稿

蘇州錦雲閣梓

七修類稿序

夫文以觀於天文俯以察於地理是故通幽明之
理而盡萬物之變不極乎天地之廣大則耳目益而
聰明銅矣春秋記二百四十二年之事聖人
代而據事直書此後世紀國事者之
大之奇變熟乎朝廷之典故

王沂公主

文昌化書後載梓童坤降筆勸敬字紙文又曰宋王沂公
之父見字紙遺墜必撿拾以香湯洗燒之一夕夢宣聖拍
其背曰汝何以重吾字紙之勤也恨汝老矣無可成就他
日當令曾參來汝家受生顯大門戶未幾果生一男遂命
名曾後果狀元及第誠若是則吾夫子亦有輪迴果報之
事乎老杜所謂孔子釋氏親抱送者非欺我也可發一笑

(明) 郎瑛『七修類稿』卷四十九

儒教經典の恩返し

もしこれが本当なら、われらが孔子様も（仏教が説く）因果応報をやったことになり、杜甫の詩にいう「孔子と釋氏、親しく抱き送る①」も嘘ではないようだ。なんとも滑稽な話だ。

（明）郎瑛『七修類稿』卷四十九・王沂公生

【解説】

①（唐）杜甫「徐卿二子歌」（全唐詩卷二一九所収）

君不見徐卿二子生絕奇、感應吉夢相追隨。

孔子釋氏親抱送、並是天上麒麟兒。

（完）

七修類稿

蘇州錦雲閣梓

七修類稿序

夫文以觀於天文俯以察於地理是故通幽明之理而盡萬物之變不極乎天地之廣大則耳目益而聰明銅矣春秋記二百四十二年之事聖人代而據事直書此後世紀國事者之大之奇變熟乎朝廷之典故

王沂公主

文昌化書後載梓童坤降筆勸敬字紙文又曰宋王沂公之父見字紙遺墜必撿拾以香湯洗燒之一夕夢宣聖拍其背曰汝何以重吾字紙之勤也恨汝老矣無可成就他日當令曾參來汝家受生顯大門戶未幾果生一男遂命名曾後果狀元及第誠若是則吾夫子亦有輪迴果報之事乎老杜所謂孔子釋氏親抱送者非欺我也可發一笑

A photograph of a man with glasses, wearing a dark jacket over a light blue shirt, sitting at a desk and reading a large, open book. He is in a library or study, with tall wooden bookshelves filled with books in the background. The lighting is warm and focused on the man and his book.

スタイン説を補強した中国の研究者

敦煌文書の価値を重視する中国では、スタインの説を支持する研究者は少ない。その中で、原資料に対する綿密な調査と網羅的なデータ収集によって、スタインの説を補強しているのが中国社会科学院研究員の方広鋁氏（一九四八）である。

方広鋁(1948-)

方広鋁の「廃棄説」

①敦煌文書から発見された仏教經典はわずか四百種弱に過ぎず、当時の標準的な大蔵經（唐の智昇『開元釈教録』「現蔵入蔵目錄」所収一〇七六種）の半数にも満たない。

『方広鋁敦煌遺書散論』

（上海古籍出版社、二〇一〇年）

方広鋁(1948-)

方広鋁の「廃棄説」

②敦煌文書はほとんどが使い古しの残巻であり、天竿（卷子本の巻首を保護するためにつけられた細い竹や木）と尾軸（卷子本の軸、左図参照）が揃ったものは、中国国家図書館蔵の一六五七八部の中ではわずか八部、大英図書館蔵の約一四〇〇〇部の中でも三〇部に過ぎない。

『方広鋁敦煌遺書散論』

（上海古籍出版社、二〇一〇年）





方広鋁の「廃棄説」

③敦煌文書は同じ經典の重複が多く、主要な八種の仏教經典の合計が、中国国家図書館所蔵のものでは全体の六六・三%、世界各地に散在する敦煌文書約六五〇〇〇部の中でも四・二%を占めている。

『方広鋁敦煌遺書散論』

(上海古籍出版社、二〇一〇年)

方広鋁(1948-)

方広鋁の「廃棄説」

さらに氏は、中国国家図書館蔵の敦煌文書の中から「この紙は故経処に安置されたし」と書かれた廃紙（『大般若波羅蜜多經』北敦〇七七一一号）を発見している。氏によれば、この「故経処」とは敦煌の寺院の中にあつた廃紙の保管場所を指すという。

『方広鋁敦煌遺書散論』

（上海古籍出版社、二〇一〇年）



方広鋁(1948-)

敦煌写本『啓顔録』の発見

敦煌文書の中からは、日本文化のルーツの一つを明らかにする資料も発見された。

唐代初期に編まれた笑話集『啓顔録』は、『日本国見在書目録』*に記載されていることから、日本にも伝来したことが知られていたが、その後、中国でも日本でも佚書となっていた。

敦煌で発見された『啓顔録』には、日本の狂言に影響を与えたと考えられる二つの話が収録されていた。

*『日本国見在書目録』：平安時代初期の九世紀末、藤原佐世が勅命を受けて編纂した書籍目録。当時、日本に現存した漢籍の名と巻数が列挙されている。



Nôgaku theatre

Japan

Inscribed in 2008 ([3.COM](#)) on the Representative List of the Intangible Cultural Heritage of Humanity (originally proclaimed in 2001)

Nôgaku theatre had its heyday in the fourteenth and fifteenth centuries, but actually originated in the eighth century when the Sangaku was transmitted from China to Japan. At the time, the term Sangaku referred to various types of performance featuring acrobats, song and dance as well as comic sketches. Its subsequent adaption to Japanese society led to its assimilation of other traditional art forms. Today, Nôgaku is the principal form of Japanese theatre and has influenced the puppet theatre as well as Kabuki. Often based on tales from traditional literature, Nôgaku theatre integrates masks, costumes and various props in a dance-based performance. Moreover, this theatre requires highly trained actors and musicians. Nôgaku encompasses two types of theatre: Noh and Kyôgen, which are performed in the same space. The stage projects into the audience and is linked by a walkway to a "hall of mirrors" backstage. In Noh, emotions are represented by stylised conventional gestures. The hero is often a supernatural being who takes on human form to narrate a story. The distinctive masks for which Noh is renowned are used for the roles of ghosts, women, children and old people. Kyôgen, on the other hand, relies less on the use of masks and is derived from the humorous plays of the Sangaku, as reflected in its comic dialogue. The text is written in ancient language and vividly describes the ordinary people of the twelfth to sixteenth centuries. In 1957 the Japanese Government designated Nôgaku as an Important Intangible Cultural Property, which affords a degree of legal protection to the tradition as well as its most accomplished practitioners. The National Noh Theatre was founded in 1983 and stages regular performances. It also organizes courses to train actors in the leading roles of the Nôgaku.



Nomination file

Decision

Inscription: [3.COM](#)

Periodic reporting

か？
なっている
この能楽の研究で世界の中心と
なっている研究機関はどこにある

二〇〇八年、能楽（能・狂言）が
文楽、歌舞伎とともに国連教育科学
文化機関（ユネスコ）の無形文化遺
産の代表リストに登録された。

野上記念法政大学能楽研究所

The Nogami Memorial
Noh Theatre Research Institute of
HOSEI University

日本語

[English](#)

法政大学
HOSEI UNIVERSITY

[トップ](#)

[概要](#)

[研究所の活動](#)

[蔵書・文庫](#)

[デジタルアーカイブ](#)

[利用案内](#)

[刊行物](#)

[リンク](#)



法政大学能楽研究所が所蔵する現
存最古の狂言台本。卷末に天正六
（一五七八）年の日付があり、中
世末期の一〇三曲の上演方法が記録
されている。江戸時代になって式楽
化される以前の狂言の姿を伝える唯
一のテキストである。

一
をす一人あて二人ふひあて

天正狂言本「附子砂糖」 (野上記念法政大学能楽研究所蔵)

狂言「附子」

狂言「附子」は、『沙石集』に記された鎌倉時代の笑話を題材にしたものと考えられてきたが、敦煌写本『啓顔録』と『天正狂言本』の比較から、そのルーツが千二百年前の中
国に遡る可能性があることが明らか
になった。





和泉流狂言「附子」 (野村万作・萬斎)

狂言「鏡男」

狂言「鏡男」は古代インドの仏教説話にルーツがあると考えられてきたが、敦煌写本『啓顔録』と『天正狂言本』の比較から、その直接のルーツが唐代の中国にある可能性が明らかになった。



まとめ

敦煌莫高窟第十七窟(蔵経洞)に文書が封蔵された理由については、英国のスタインが唱えた「廃棄説」とフランスのペリオが唱えた「退避説」の二説があるが、中国社会科学院の方広鋁氏の研究により、現在では「廃棄説」が有力視されている。

敦煌文書の中にはその後散逸した書籍も含まれていた。その一つである敦煌写本『啓顔録』は、日本の狂言が唐代に中国から伝わった笑話に題材を得ている可能性を明らかにした。

狂言「鏡男」

狂言「鏡男」は古代インドの仏教説話にルーツがあると考えられてきたが、敦煌写本『啓顔録』と『天正狂言本』の比較から、その直接のルーツが唐代の中国にあったことが明らかになった。



方広鋁の「廃棄説」

③敦煌文書は同じ經典の重複が多く、主要な八種の仏教經典の合計が、中国国家図書館所蔵のものでは全体の六六・三%、世界各地に散在する敦煌文書約六五〇〇〇部の中でも四・二%を占めている。

『方広鋁敦煌遺書散論』

(上海古籍出版社、二〇一〇年)





方広鋁の「廃棄説」

③敦煌文書は同じ經典の重複が多く、主要な八種の仏教經典の合計が、中国国家図書館所蔵のものでは全体の六六・三％、世界各地に散在する敦煌文書約六五〇〇〇部の中でも四・二％を占めている。

『方広鋁敦煌遺書散論』

(上海古籍出版社、二〇一〇年)